

75歳以上高齢者の中半

1770万人 人口推計で初

総務省が20日公表した3月1日時点の人口推計

(概算値)によると、75歳以上の後期高齢者は1770万人で、65～74歳の1764万人を上回り、高齢者全体の半数を超えた。人口推計で75歳以上が65～74歳を上回るのは初めて。75歳を過ぎると寝たきりや認知症など心身が衰えやすくなり、社会保障費の膨張が国と地方の財政を圧迫する中、安定的な医療・介護制度の構築が課題となる。一人暮らしの生活支援といった対策も急務だ。

など、今後もこの割合は拡大する見込みだ。

推計によると、75歳以上のうち男性は693万人、女性は1077万人。85歳以上は

男性173万人、女性387万人の計559万人だった。

年代別の総人口に占める割

合は、15歳未満が12・3%、15～64歳が59・8%、65歳以上は27・9%だった。

10年前(08年3月)の人口

推計では、65～74歳が148

万人だったのに対し、75歳

以上は1297万人だった。

医療技術の進歩や体力の向上

で寿命が延びていることか

3月1日時点の総人口(1億2652万人)に占める75歳以上の割合は14・0%。戦

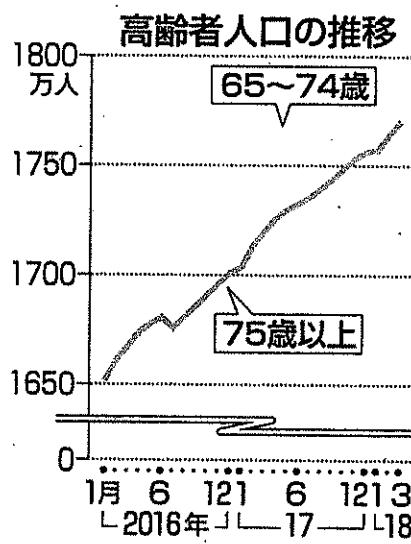
生まれた団塊の世代金貯が2025年に後期高齢者になる

保障や生活支援 課題

ら、後期高齢者は近年、月5万人前後のペースで増加。日本老年医学会は昨年、高齢者の定義を75歳以上に見直すよう提言している。

75歳になつても元気な人は多く、政府は2月に決めた高齢社会対策大綱に「年齢に

関わりなく希望に応じて働き続けられるよう雇用、就業環境を整備する」と明記した。ただ、心身の衰えや一人暮らしでサポートを必要とする人も増えるため、生活支援や、孤立を防ぐ対策が必要だ。



*総務省の人口推計(各月1日時点)による。17年11月以降は概算値